

水泳指導時の新型コロナウイルス感染症 拡大防止に関する配慮事項

(令和3年5月26日現在・吉川市立旭小学校 体育部会)

1 準備時・環境整備

※家庭における毎朝の検温や健康観察の確認、学校における学習前の健康状態の把握を行います。また、移動時はマスクの着用をします。

○残留塩素濃度

- ・常に既定値以上（0.4 ppm～1.0 ppm）の残留塩素濃度が残っているのか確認を行います。（授業開始時ごと）

○用具の整理、消毒

- ・水泳指導で使用する用具は、基本的に塩素により消毒されたプール内で使用しているため、感染リスクは低いと考えられます。

○動線の確保

- ・プール入口で密な状態にならないよう、授業時間帯の工夫をしています。また、行き来の際の動線も確認しています。

○更衣室のルール（プールの更衣室は使用せず、教室及び特別教室を使用します。）

- ・同時に多人数で着替えをすることにならないよう配慮しています。
- ・換気にも留意しています。

○各学級の割り振り

- ・プール内での活動人数及び児童同士の距離を考え、1，5年生、2，6年生、3，4年生の組み合わせで授業を割り振ります。

○指導体勢について

- ・同一時間帯にプール内には原則4人以上（最低3人）の教員を配置します。

2 授業開始前

○残留塩素濃度の確認

- ・残留塩素濃度は授業の前後に必ず行い、規定値を下回らないか確認を行います。

○同時に入る学年の担任同士での連絡調整

- ・同時に授業を進める際に気を付けることとして児童同士の交錯が考えられます。移動時やプール場の入り口、更衣室入り口付近、水泳学習開始前、開始後のシャワー付近では密にならないようにします。

○マスクの収納場所

- ・マスクは児童それぞれが名前を書いたビニール袋やジップロックを使用し、通常の体育時と同様に下駄箱で保管します。

○見学者の指導

- ・見学者はマスク着用を必須とし、風通しのよい場所や日陰にて見学をさせます。
- ・見学者同士も十分距離がとれるよう配慮します。

3 授業中

○準備運動

- ・準備運動では児童同士の間隔を十分に確保して、行います。
- ・準備運動は教員の笛等で行い、大きな声を出さないようにします。

○バディの確認

- ・安全確認、指導の効率化のために、バディシステムを導入していく必要があります。その際は、以下のことを原則とします。
 - ◆①基本的にバディ確認の際、児童同士接触はしないようにします。
 - ②全体の指示は必ず教員が行います。
 - ③対面にならないようにします。

○入水時

- ・入水時は大きな声が出やすいため、教室における指導を行う場合があります。
- ・教員は水泳用マスクを着用し、必要に応じてフェイスシールドも活用します。
- ・1単位時間で2クラスまでの入水とします。

○水慣れの運動

- ・水慣れの運動においては、一定の距離を保ちながら活動が行えるものを選びます。

○主運動

- ・一方通行での水泳とします。
- ・児童が進むコースの方向や入水時、待機時の指導を確実に言い、密になるタイミングをつくらぬよう配慮します。
- ・活動内では児童同士が向き合うタイミングが極力なくなるよう配慮をします。

○泳法指導

- ・基本的に補助に入る活動は教員が行い、児童と顔が向き合わないようにします。
- ・教師が示範を見せる場合には十分に距離をとって行います。

4 授業後

○整理運動

- ・整理運動では、児童同士の間隔を十分に確保して行います。

○退出時

- ・プール退出時など授業終了後もタイミングをずらしません。

○プールサイドの消毒

- ・授業終了後はバケツでプールの水をくみ、プールサイドにまいて消毒を行います。

○用具の消毒

- ・プールサイド等の水に触れない状態で使用した用具は、消毒をします。
- ・児童が触れた箇所においても消毒を行います。

5 その他

- ・用具の貸し借りはしないことを原則とします。
- ・使用している用具やタオル、帽子など、児童同士で取り違えないよう、置く場所の確認をするなど注意を払います。